

# 豊寿園

FRUITFUL TREE

# 豊かな樹

Summer 2018

Vol. 39

JAPANESE RED CROSS  
SOCIETY FUKUOKA  
PREFECTURAL CHAPTER  
THE SPECIAL NURSING HOME  
HOJYUEN

TOPICS

MORE CROSS

HOJYUEN × FAMILY

AREA INFORMATION

CARE MEMO

HOJYUEN'S ALBUM

SPECIAL SECTION



# トピックス

## 安岐の郷の100円居酒屋を視察しました！

6月2日に、大分県国東市にある社会福祉法人安岐の郷で開催された「100円居酒屋」を視察させていただきました。この100円居酒屋は、大分県国東市安岐町朝来(あさく)地区の山里にある廃校になった小学校を会場に、地域の方々の交流場所として毎月1回開催されており、今回で110回目の開催でした。

豊寿園も、様々な形で地域の方々との交流方法を模索していきたいと思っております。安岐の郷の皆さん、ありがとうございました。

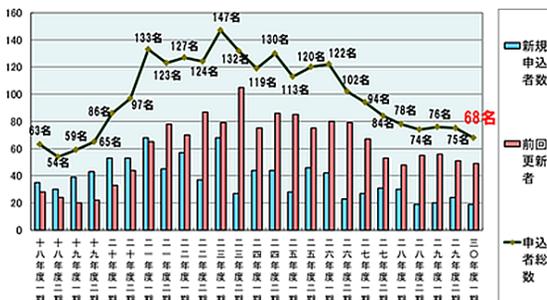


写真左 高橋一雄事務長 写真右 高橋とし子理事長

## 6月からの特養待機者が決定しました！

5月22日に、外部第三者委員を交え、特養の待機順位を検討する入所検討会議を開催しました。

今回6月からの半年間豊寿園の入所をお待ちいただく方々は68名でした。入所待機の進捗はホームページでもご確認いただけます。



## 特養利用者様の健康診断を実施しました！

4月7日に、門司区歯科医師会の先生方による特養利用者様を対象に歯科健診を実施していただきました。治療が必要と診察された方々には、既にお知らせの上、治療を開始していただいています。

また、健康診断も6月25日、26日に実施しました。結果を囑託医である渡邊医師に確認いただき、必要時は精査など指示を仰ぎ対応いたします。



## 送迎車両が新しくなりました！

利用者様の搬送用車両が新しくなりました。新しい車両で、利用者様を安全に搬送させていただきます。





**5月27日**  
**毎年恒例。門司みなと祭り祝賀パレードに参加しました！**

北九州市門司区の恒例イベント「門司みなと祭り」祝賀パレードに今年も赤十字地域奉仕団、早鞆中学校の皆さんと一緒に参加しました。沿道から、たくさんの温かい声援をいただきました。



**5月23日**  
**市民センターのサロンに参加**

松ヶ江北市民センターで開催された「松北ふれあいサロン」に利用者様と参加しました。当日は、竹凛共振竹楽団ガチャティーナによる演奏が行われました。地域の方々だけでなく、近隣の福祉施設からも多数の参加がありました。



**5月19日**  
**門司港レトロで清掃のボランティア活動**

5月8日の世界赤十字デーにちなんだ活動として、門司港レトロ地区の清掃活動を行いました。当日は豊寿園で活動いただいていますボランティア団体 北九州赤十字看護奉仕団 じゅんの会の皆さんと一緒に活動し、2時間余りでたくさんのごみを集めることができました。



**5月25日、30日**  
**北九州市立松ヶ江北小学校へ出前授業に**

松ヶ江北小学校の6年生のクラスに、奥水介護課長、荒木通所介護係長がお伺いし、「介護・福祉の仕事内容の説明」や「認知症サポーター養成講座」の授業を行いました。



## あなたと向き合った日々

HOUJYUEN × Family

今回、荒木施設介護係長のインタビューを受けてくださったのは、城田様です。ご自宅での介護を経て、現在は奥様が豊寿園にご入所されています。ご自宅での体験談をお聞きました。

私は当時、認知症の知識はほとんどありませんでした。妻の物忘れには、平成20年頃から気づきはしましたが、一時的なものだろうと思っていました。通帳やその他の貴重品をしまい込んで、その場所がわからなくなるんです。私が仕事に行っていると妻から、「〇〇が無くなった！」と電話がかかってくるんです。私が、「帰ったら一緒に探そう」と言っても電話を切つても、10分後にまた、同じ電話が……。きりが無いので急いで帰って一緒に探したりしていました。最初のうちは、貴重品を入れた袋ごと風呂釜やソファの裏にしまい込んでいて、探し出しやすかったんです。

「まさかこれが病気だなんて、思ってもみませんでした。」



今回インタビューに応じてくださった 城田 時男様

けれど、不安で堪らないのか、だんだんとしまい込む場所が複雑になっていつて見つけにくくなりました。ある時には通帳を季節外れの冬用絨毯を巻いてたて掛けていた中にしまい込んでいて、あれは探し出すのに苦労しました(笑)。通帳の利用停止や、再発行の手続きなど心配が絶えなかつたので、妻に「今度から私が全部管理する」と、説明してみたのですが、その日の夕方には「何で人の通帳まであなたが持つているの?」と、怒られる始末です(笑)。それでも、当時の私は、「まさかこれが病気だ」、なんて、思ってもみませんでした。

「好きだった旅行も辞めました。」

その頃、鹿児島へ二人で旅行に行きました。私達夫婦は昔から旅行が好きで、北海道から沖縄まで、色々な所に行きました。なかでも鹿児島は、私達の新婚旅行に行った思い出の場所です。温泉に行こうと出かけたのですが、妻が中々お風呂から出て来ないんです。「どうかしたのか」と心配していたら、温泉のスタッフから、「奥さんが他人の衣服を扱っている」と言われました。泥棒と間違われたようです。きつと妻は自分の服をどこにしまったのか分からなくなつて、一人で探していたので2人で旅行に行くことをやめました。

「どこをどうやって歩いて行つたのか見当もつきませんでした。」

平成25年のある朝、妻が1人で出かけたまま、行方不明になりました。それまでも何度か1人で出かけていく事はあったのですが、ちゃんと帰って来ていたので油断していました。その日は私が自分の病院へ行く日で妻が独りで留守番をしていたのですが、家に電話してもつながらず、結局、夕方になつても帰ってきませんでした。それで慌てて長男に相談し、警察へ通報する事になりました。一晩中、私と長男達とで自宅待機と毎朝の日課であったジョギングコースの探索を分担して探し回りました。幸いなことに、翌日、警察によって自宅から10km以上も離れた場所を独りで歩いている所を保護され、交通事故や怪我もなく、無事に帰って来てくれました。警察が歩いている妻を発見した時には、片方の靴を履いていなかったそうです。

「1人で頑張らんで、皆で協力するように」と助言されました。」

行方不明になつた事を機に、長男がインターネットで病院を調べて、私達と一緒に受診に付き添ってくれました。検査の結果、妻はアルツハイマー型認知症の診断を受けました。

私は、妻が認知症だなんて全然想像もしていませんでしたが、長男は予感していたようです。病院の先生から、「1人で頑張らんで、皆で協力するように」と助言されました。私は、妻が認知症であることを周囲に話したくはなかったのですが、長男の勧めで近所の親しい方には事情を話しておくことにしました。

診断を受けた際に、区役所へ介護保険の相談をするように勧められました。長男が手続きをしてくれて、初めは要介護1の認定を受けました。それから娘のつてを頼ってケアマネジャーも決まり、デイサービス、訪問看護、ショートステイ等の利用に到りました。とても良くしてくれるケアマネさんで、何から何まで世話してくれて、本当に助かりました。

— 周囲の協力が心強かったです。 —

介護サービスを利用するまでは、私が1人で妻の介護をしていました。私が髭剃りをしている際に妻が1人で出かけてしまう、なんていうことが一番心配でしたが、娘の同級生がたまたま近所に暮らしていて、妻を見つけては電話で教えてくれるということもありました。気をつけていても気づけば居なくなる。私1人では到底、妻の面倒は見れません。長男は買い物をして来

てくれて助かりました。これも事情を話しておいたからだと思えます。周囲の協力が本当に心強かったです。

次に大変だったのがお風呂です。私が誘っても「後で入る」と言って入ってもらえません。訪問看護のスタッフも試行錯誤してくれましたが、やはりダメでした。その為、長い間、入浴できず身体を拭くことしかできませんでした。それからトイレです。部屋の隅で用を足すようになりました。トイレの場所が、わからなくなってしまうでしょう。『トイレは1階です』と張り紙をしてみたのですが、ダメでした。字は読めるのに、内容を理解してもらえないんです。仕方がないので、トイレを探していそうだと気づいたら、毎回付き添って一緒に行くことにしました。

— 寂しさなんかはありません。面会に行けば、いつでも会えますから。 —

自宅での介護を始めて1年位過ぎた頃、ケアマネジャーが私の介護疲れを汲み取ってくれて、豊寿園への入所を視野に、ショートステイの利用を勧められました。最初は数日間だけ泊まっては帰宅、徐々に利用日数を長くしていきます。ショートステイでは、定期的に入浴もできるようになって、預けていても安心できました。デイサービスの時は、妻が居ない間に家事なんかを

してしまうので精一杯でしたが、日課だったジョギングや、体操等、自分の時間を持つことで気持ちも身体もリフレッシュできました。それからしばらくして特養への入所が決まり、正直ほっとしました。入所が決まったことを遠方にいる娘に伝えたら、喜んでくれました。自分が直接母の介護ができないことと、私への心配もあつて安心したんだと思います。

入所して最初のうちは、「一緒に連れて帰って！」なんて言われたらどうしよう...という不安がありました。けれどショートステイを利用していたのが良かったのか、私の不安もよそに、妻はすぐに馴染んだ様子で取り越し苦労でした。家で一緒に暮らしていないことに寂しさなんかはありません。面会に行けばいつでも会えますから。今は、介護のことは豊寿園さんに任せて、私は行事の参加等で協力していきたいと思っています。



城田様ご夫妻(写真右がご本人)  
お二人が大好きだったご旅行中の一枚。  
今も変わらないご夫婦の仲の良さが伝わってきます。

## 地域ぶらり情報



## T a i m と T i m e

豊寿園より車で3分、県道25号線沿い（旧道）の秋山ビル1Fに、松ヶ江に育った同級生4人で作るお店『café・Taim』があります。自分たちのような同級生が気軽に『あつまれる場』それも単に大人のための『飲み屋』ではなく『子供からお年寄りまで、安心して入れる店』を作りたいと始めました。店名のタイム（taim）は同級生4人の名字が由来だそうです。また、時間や時代（time）の意味も込められています。お店のある、松ヶ江に時代を超えて集う人々の「居心地のいい場所」になることを心から願っている、とオーナーさん。お店に入ると、松ヶ江を象徴する『松』を使用した一枚板のカウンターと、旧雅叙園絵画がお出迎えをしてくれ、店内の一角には防音設備の部屋になっています。

お昼のランチは500円で、人気はハンバーグや唐揚げだそうです。地元のお米を使用し、味付けも地域の味にあわせているので地元の方には親しんでいただけるのではないかと思います。人気のランチやサイフォンで入れるコーヒーなど居心地の良い時間を楽しんでみてはいかがでしょうか？

### Cafe Taim カフェ・タイム

北九州市門司区吉志2丁目4-1

TEL 093-481-0112

定休日 月曜日

OPEN 11:00~15:00 17:00~22:00

## あとがき

夏を迎え、大雨、台風のシーズンになりました。7月には西日本で大雨による被害が発生し、豊寿園のある北九州市門司区でも土砂災害が発生しました。今後も自然災害への心配は尽きません。豊寿園では、防災委員会を中心に、災害発生時のマニュアルの見直しや、備蓄品の確認などを行い、万が一に備えています。

そんな中、この豊かな樹の編集作業中、私の関心事はサッカーの世界カップでした。直前の監督交代を経て戦った日本代表は、見事にグループステージを勝ち上がり、惜しくもベスト16で敗退となりました。急造チームでも、一丸となって確かな戦術の中で頑張れば、高い壁も乗り越えられることを教えてもらった気がします。豊寿園も各々の特徴を活かし、連携して、更なる高みを目指していけたら・・・そんなことを考えさせられた世界カップでした。

今回の豊かな樹でも、チーム豊寿園の頑張りを余すことなくご紹介しています。是非、お楽しみください。

平成30年度広報担当 森 英樹



今回表紙を飾ってくれたのは、牧友理さん（特養2階介護職員）です。 دونالدダックとAAA（トリプルエー）が好きな、若手介護職員さんです。暑い中、屋外での撮影に協力してくれました。

# 介護メモ

CARE MEMO

今回のテーマは「褥瘡予防」についてです。  
ご自宅で簡単にできる褥瘡予防法をご紹介します。

## ○ 褥瘡（じょくそう）とは

ずれる力・捻じれる力・圧迫が長時間加わり、骨の部位に発症する阻血性障害の事を言います。

寝ている姿勢では、仙骨部（骨盤の中央にある逆三角形の形をした骨）が最も多く、次いで踵骨部（かかとの骨）、肩甲骨部（肩の下、背中の上部に位置して骨）、後頭部などがあります。発生要因としては、動く事が困難な方や、脳梗塞の後遺症等で肌に触れている感覚が鈍くなると発生リスクは高くなります。

また、リクライニング式の車いすやベッド背部の角度を変えるとズレや捻じれが生じ、長時間その状態が続くと床ずれが発症しやすくなります。

## ○ 褥瘡の予防法とは

### ご家庭で出来る簡単予防法

☆ 2時間毎に、姿勢や車いすの角度を変えましょう！

・ 2時間以上連続して同じ個所に圧力がかかると組織の損傷が起きます。

☆ 座布団やクッションを敷いてください！

・ 特に普通の車いすに座る時の座面の圧は、パイプ椅子の座面と同じくらいだと言われています。褥瘡予防用の座布団もありますが、とりあえず一般的な座布団を敷くだけでも予防効果があります。

☆ 車いすやベッドの角度を変えた後は、背抜きをしましょう！

・ 背抜きとは、寝たり、座っている状態で、背中が寝具やマットレスなどに張り付くようにズれる力がかかるのを、体をしっかりと浮かせて解放することです。

### 背抜きの方法



ベッドと背中の中に手のひらを差し込み、大きくなでる。難しければベッドマットを押しだけでも効果があります。



状態を可能な範囲でゆっくり前へ倒してもらい、衣類のしわを伸ばして背中を2、3回大きくなでる。

### 開園記念行事



6月 開園記念行事で三味線や子供さんのダンスと触れ合いをお楽しみいただきました。



### 畑で収穫



6月 豊寿園の畑でできたジャガイモの収穫を行いました。

### バスハイク



5月 ご家族と門司港レトロへバスハイクに出かけました。

### 豊寿園 アルバム



### 新門司保育所交流会



5月 新門司保育所園児さんとの交流会。かわいいお遊戯やふれあいをお楽しみいただきました。

### お花見



4月 豊寿園の桜で花見を楽しみました。

デイサービス

お花見



4月 園内の花を楽しみました。  
お花に負けない笑顔です。

ドライブ



5月 小倉南区に鯉のぼりを見に行きました。

野菜の収穫



6月 デイサービスの畑で大きなキュウリが成りました。

運動会



6月 いろんな競技  
みんなで力を合わせて頑張りました。



献血ルーム おっしょい博多

福岡市博多区博多駅中央街2-1  
博多バスターミナル8階  
TEL 092-476-1400



献血ルーム キャナルシティ

福岡市博多区住吉1-2-25  
キャナルシティビジネスセンター1階  
TEL 092-272-5853



献血ルーム ハッピークロス イムズ

福岡市中央区天神1-7-11イムズ8階  
TEL 092-726-1188



献血ルーム 魚町銀天街

北九州市小倉北区魚町1-3-3白樺ビル  
TEL093-551-1211



献血ルーム くろさきクローバー

北九州市八幡西区西曲里町3番1号  
イオンタウン黒崎1階  
TEL 093-644-1211



移動献血バス“愛の献血車”

毎日 福岡県内を巡回しております。

福岡県内では  
各献血ルームと  
移動採血バスで  
皆さまをお待ち  
しています！

7月は「愛の血液助け合い運動」月間です。いつでも患者さんに血液をお届けできるように、定期的な献血へのご協力をお願いします！

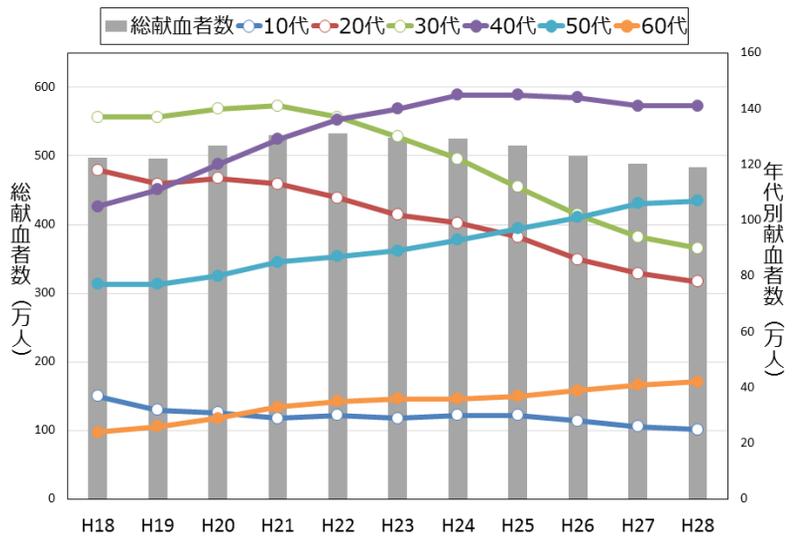
### 1. 献血と日本赤十字社

献血とは、病気や怪我で輸血を必要としている人のために、自発的に無償で血液を提供することです。日本での献血の受入れは国(厚生労働省)から唯一、採血事業者として許可を受けている日本赤十字社が行っています。

献血には成分献血(血小板成分献血・血漿成分献血)全血献血(400mL献血・200mL献血)があります。

### 2. 献血のこれから

現在、輸血を必要としている方は、全体の85%程度が50歳以上の方(※1)となっている一方、献血にご協力いただいている方の約70%は50歳未満の方(※2)となっています。この50歳未満の中で、10代から30代の『若年層世代』の献血者が減少傾向にあり(右グラフ参照)、今後少子高齢化がますます進んでいくと輸血に必要な血液を献血で確保し、医療機関へ届けることに支障をきたす恐れがあります。



そのため、全国の赤十字血液センターでは『若年層世代への献血思想の普及』を大きな目的と捉え、高校生・大学生といった献血に協力できる世代への啓発活動はもとより、中学生以下の世代に対しても、将来的な献血への協力を促すため、『献血セミナー』等を開催し、献血思想の普及に努めています。

### 3. 福岡県内での献血の受入

人間一人ひとりの血液は、たとえ血液型が同じでも微妙に違ってきます。このため、複数の献血者からの血液をあわせて一人の患者さんに輸血するほど、副作用(発熱、発疹など)発生の可能性が高くなります。成分献血・400mL献血は、200mL献血に比べて献血量が多いことから、少ない献血者からの輸血を可能にし、安全性を向上させると言えます。

その為、福岡県赤十字血液センターでは、移動採血においては400mL献血(男性:17歳以上・女性18歳以上)の受入を中心に行い、県内5か所の献血ルームでは成分献血(男性・女性とも18歳以上)及び全血献血の受入を積極的に実施しています。

献血推進キャラクター



Summer 2018

Vol.39

TOPICS

MORE CROSS

HOUJYUEN\* FAMILY

AREA INFORMATION

CARE MEMO

HOUJYUEN\* S ALBUM

SPECIAL SECTION



# FRUITFUL TREE

JAPANESE RED CROSS SOCIETY FUKUOKA PREFECTURAL CHAPTER THE SPECIAL NURSING HOME HOUJYUEN